

1 9年度運營業績報告

1. 運営状況概要

19年度は放射線技師の人数が18年度に比べ2名の減とあわせ、3ヶ月間の休養者などがあり、人員的には非常に厳しい状況での1年であったが、件数、診療点数共に昨年度を上回った。CT、一般撮影の増加により診療点数は前年度に比べ大幅な増収となった。当院のX線装置別の患者取り扱い件数と点数についてみると一般撮影、CT、ポータブルの順位に件数は多いが、診療点数はCT、一般撮影、心カテの順となる。一般撮影、ポータブルは件数が多い割には診療点数が少なく機器更新等にはなかなか理解が得がたいのが現状である。また、特筆すべきはポータブル件数の多さにある。病院の機能もあろうが1日70件前後の件数は入院患者の16%にも及び非常に多い。

運営計画の達成度について見ると、19年度は患者様から選ばれる病院等6項目を基本理念に運営を行ってきましたが、その中のインターネットの活用、ホームページの充実については、ホームページの更新が出来なかったなど取り組みが十分でなかった。数値目標についてみると、乳がん検診、脳ドック、時間外件数については数値目標をクリア出来たが、肺がん検診、MRI共同利用率については目標達成が出来なかった。肺がん検診については現行のシステムでは頭打ちで周辺企業等への呼びかけが必要と思われる。MRI共同利用率については達成率46%と低い数値に終わったが、当院の検査待ち日数を考慮すると妥当な件数と思われる。

装置の整備については、マルチスライスCT(64列)の整備が行われ、CTによる心臓の解析などが可能なワークステーション、画像サーバー(8T)、緊急地震速報対応自動ドアの導入が行われた。導入等にあつたてはスムーズな対応が出来、機構本部の共同購入施設よりいち早く稼働が出来た。また、老朽化で学会の施設認定が受けられないマンモグラフィ装置の入れ替え(他院より廃棄装置の下取り)を行い、施設認定資格が得られ、更新に向けた準備が進められている。治療装置については治療精度が高くIMRT等の最新技術が行える装置への更新が急務と思われる。その他の装置については、当科において件数、診療点数とも稼ぎ頭の一般撮影の老朽化が顕著である。

地域の連携として本年度はインターネット予約「カルナ」を導入して検査予約の簡素化を図った。徐々にではあるが増加が認められる。地域連携の一環として取り組んでいる「USリンク」は、多摩地域の医師、コ・メディカルを対象とした超音波の勉強会で隔月で6回開催(表-1)しました。院外からの参加人数はトータル181人と毎月30人前後の参加者で行われており、多摩地域のコ・メディカルの超音波の研修会として認知されつつある。学術・研修活動について、当院の撮影マニュアルに救急医療・当直現場で役立つ撮影技術、チェックポイントを加筆して製本して出版した。また、学会、研修等に積極的に参加しスキルアップが図られた結果、放射線技師による超音波検査が大幅に伸びるなど業務にも反映することができた。

災害医療関連では、DMAT研修に4名、JICA研修2名の参加が出来、新潟中越沖地震では病院チームとして当科から1名の派遣が行われた。放射線災害の日(9.30)は本年度は日曜日にあたり市民公開講座として「チェルノブイリ放射線事故のその後」等を開催し放射線事故の風化を防ぐ、放射線測定器の動作チェックについての再確認を行った。

平成19年度 US LINK実施状況(表-1)

開催日	テーマ	参加人数
2007.5.31	頚動脈の走行	46名
2007.7.26	頚動脈の奨励検討	28名
2007.9.27	頚部超音波の実際	30名
2007.12.4	腹部(胆嚢)の走査法	24名
2008.2.7	腹部(肝臓)の走査法	26名
2008.3.25	腹部(膵臓)の走査法	27名

